特集 クリニックでのリハビリ

養南新聞
発行所
社会医療法人緑峰会
養南病院
〒503-0401
海津市南濃町津屋1508
☎〈0584〉57-2511
Fax〈0584〉57-2513
http://www.younan.or.jp
younan@ogaki-tv.ne.jp

ぎふストレスケア クリニック
〒500-8345
岐阜市菊地町2-41
☎058-274-9600

10年前、養南病院にリハビリテーション部が新設されてから、当院は精神科的リハビリに力を注いできた。

なかでもデイケア「悠遊」、リワークプログラム「SMAP」そして「訪問看護」の充実ぶりは県内でも高い評価を受けている。

分院である「ぎふストレスケアクリニック(GSC)」でも、このノウハウを生かしたリハビリ部門が今注目を集めている。

デイケア「二十四の瞳」

平林クリニック時代の名称はそのままに、現在平均約20人が利用している。

スタッフの内木克治さんは「本院同様多彩なプログラムを用意していますが、なかでも得意なのは焼き芋や団子、さらにはスモークチーズなど食べ物系のプログラム。スタッフの嗜好かもしれませんが」と話す。

残った焼き芋はスタッフがおいしく頂きました

リワーク「G-SMAP」

ここでは休職中のうつ病患者などを対象に、リワークプログラムが行われており、協会の施設認定を受けた本院とほぼ同じ内容のプログラムが受けられる。

昨年まで本院の「SMAP」リーダーを務めていた担当課長の大野一人(かずんど)さんは日本でも数少ない指導スタッフの一人。大野さんを中心に、本院とも連携を取りながら、質の高いプログラムを目指している。

「フットワークの軽さと安心感が魅力です」と話す吉田真太朗係長(後列左)

G-SMAPのプログラムの様子(イメージ)

地域支援課

養南病院からは訪問にいくことが難しかった岐阜市周辺の訪問看護を担い、緊急時など予定外の訪問も積極的にこなす。

癒し系で少々頼りない男性スタッフと、控え目だが力強い女性スタッフが、日々利用者の地域生活をサポートしている。

みかルんの病院ミシュランガイド

「置き配はじめました」

コロナ第5波が猛威を振るっていた時、世間では自宅療養者は外へも出られず、かといって行政からの食料や日用品などの援助物資もすぐには届かないなんてことがあったような。今でこそ波は収まってきたけど、またそんなことになったらどうするの?総務課の渡邊龍謙さん。

「あれは本当に気の毒だったよね。だから総務課としては、職員が自宅療養する場合、経口補水液や食料、その他生活必需品を玄関先まで即日届けられるようにしたよ」

え?病院がそんなことまでしてくれるの?じゃあ家で寝てもいいような?

「そういうこと。行政の支援が来るまでのブランクをカバーするんだ」

へー。じゃあ明日から僕、自宅療養に入るんで食料の置き配よろしく!渡邊さん♥

「ずる休みには適応されないよ。みかルん…」

今回の期待度 星4つ★★★★

ウーバー渡邊と呼んで下さい

「食のこだわり」

「海鮮丼」

11月のお楽しみ給食は「海鮮丼」。すっかり先輩になってきた私、栄養士の鈴木が新人の伊藤真理子さんにレクチャーしちゃいます。

鈴木「海鮮丼は鮮度が命よ!ご飯よそったらすぐネタのせて!新人には難しいかな?」

伊藤「はい!(いきなり先輩風吹かせてきた)」

鈴「美しさも重要よ!盛り付けはこう!そしてこう!私の真似するといいわ」

伊「はい(まあまあ強風)」

鈴「サーモンの角度はもう少し右!マグロは左!まあ最初はどんどん失敗したらいいわ」

伊「はあ…(暴風警報だわ)」

鈴「私も昔はそうだったわ…。あなたも最初からホームラン打とうなんてせずに…」

丸山課長「鈴木さん、やりすぎ」

鈴「はい…」

伊「(風やんだ)」

ネタも私たちもフレッシュよ♥

熱血指導の成果、お楽しみに。

注:鈴木先輩ホントはこんなキャラじゃありません。

「いやどう見てもプレハブでしょ」

◆プレハブ診察室が完成

9月30日(木)、仮設待合室に続き、コロナ疑いの患者さんを診察するためのプレハブ診察室が完成した。

診察室はプレハブとは思えぬシックな外観で、冷暖房完備。夏や冬でも快適に診察が行える。コロナ禍も落ち着きつつあり、いまだ使用実績はないが、来るべき第6波に備え万全を期す。

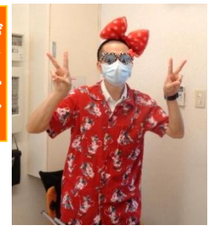
外来看護師の寺町里美さんは「この診察室を使う日が来なければいいのに」とコロナの終息を願った。

ルンルンみかルん

ディケア「ディズニーづくし」

9月24日(金)、生誕120周年を記念し、デイケアでもディズニー特集イベントを開催。似顔絵コンテストやキャラクター人気投票などで盛り上がった。

またこの日は、参加者がミッキーカラーでもある赤と黒を服装に取り入れるというドレスコードもあり、ディズニーランドさながらの雰囲気が味わえる一日となった。



なんのキャラクターに寄せているのか全く不明の和田係長

ディケア「そのスポーツの名は「ドンブリー」」

今デイケアではどんぶりを転がすというシュールなスポーツが流行っている。その名も「ドンブリー」。スタッフの門脇真司さんが命名した。

「好きな丼は親子丼です!」

リワーク「季節外れのアサガオ」

リワークプログラムにおける委員会活動の一環として6月に植えられた朝顔が、夏を過ぎてなお花を咲かせ続けている。

その生命力の強さを感じるとともに、まるでリワークメンバーの復職、再就職を応援しているようにも見える。

リワークセンターにお立ち寄りの際はここを歩いてパワーをもらってみては。

※変な宗教ではありません

花言葉は「固い絆」みんなで頑張ろう!

◆転倒防止トレーニング開始

北2階病棟において、転倒防止を目的とした「エクササイズプラス」が9月より開始された。通常のエクササイズに、重りを使った本格的な筋力トレーニングを加えたもので、参加者からも「身体が軽くなった」などの声が聞かれはじめている。担当の笠原優希作業療法士は「マスクしながら筋トレすると肌の治安が悪くなるんですよね…」と小さくぼやいた。

駐車場地鎮祭(GSC)

リハビリ部門や外来患者の増加に伴い、GSCの駐車場が増設され、9月2日(木)にはその安全を祈願し地鎮祭が執り行われた。

山の中にある本院とは違い、岐阜市中心部に位置するクリニックにとって駐車場の確保は重要な課題。髙橋憲治事務長は「これで計50台が停められるようになった。安心して来院して欲しい」と話した。

「かしこみかしこみまうす~」

羅笑門

2月からデイケア課で勤務する小村悟さんを紹介します。

Q もうすでに半年が経過しましたが、どうでしょうか?

A 一言で言えば働きやすくて有難いです。

Q 休みの日何してます?

A 基本子育てに追われる日々を過ごしてます。でも年に数回は海釣りに行くのが唯一の楽しみなんです。

Q ほう…。たまにとはいえ、妻と子を残し父は海へ出るわけですな。

A 漁に出る覚悟で出港します。もし釣れなかったら…という不安を掻き消すように“無”の境地へと自分を誘って…

Q マジで釣れなかったらどうするの?

A 程度の良いお土産センターは押さえてあります。

Q なるほど!だから毎日の愛妻弁当へと繋がっているんですね~。

A そうなんです!今日も美味しく頂きました!家内安全、そして仕事も安全第一で頑張っていきます。

カズオの訪問絵日記

僕の名はカズオ。訪問看護師にとって利用者さんのお悩みを聞くのは大事な仕事。じっくりと受容的な姿勢で対応し、どう助言すべきか思慮をめぐらす。と、その時同行の川瀬敬子看護師が僕を差し置いて話し出した。あ、今言おうと思ったことを…。その後も僕の前に出て話し続ける川瀬さん。

今年入った新人さんなのに既にベテランの風格。行動力、瞬発力が売りのようです。

◆水源地探険隊①

養南病院ではその立地条件をいかし、県の許可を得て山の水を散水用などに使用している。ところが最近めっきり水の量が減ってきた。その原因を探るため施設管理グループは川地守隊長率いる探険隊を結成し現場に派遣することを決めた。

現場は養老山地の奥深く。危険を伴う任務になる事が予想される。

というわけで、結果は次号で発表させていただきます。どうぞお楽しみに!

川地さん(右から2人目)が隊長に選ばれたのは、単に見た目が藤岡弘?っぽかったから。

◆次回のお知らせ

次回の養南新聞は令和4年1月号になります。